

工作機械工業 収益状況集計

(2019年度 第2四半期)

会員企業のうち2019年11月末迄に2019年度第2四半期決算を公表している専業比率30%以上の上場企業16社を集計。集計調査対象企業における専業比率は83.8%。なお、今期はIFRSに移行した企業1社を対象外とした一方、専業比率の上昇により調査対象に含めた1社を加え、前年度と同数の16社集計となっている。

1. 連結決算の概要

表1 連結決算の概要(16社)

(単位：百万円・%)

	19年度 I期	19年度 II期	19年度 I～II期	前年同期比	18年度 I～II期
売上高	165,556	186,561	352,117	△ 11.0	395,723
売上総利益	50,186	53,973	104,159	△ 14.7	122,060
売上総利益率	30.3	28.9	29.6		30.8
営業利益	11,146	13,243	24,389	△ 37.8	39,231
営業利益率	6.7	7.1	6.9		9.9
経常利益	11,794	13,027	24,821	△ 39.2	40,810
経常利益率	7.1	7.0	7.0		10.3
当期利益	7,731	8,293	16,024	△ 43.2	28,207
当期利益率	4.7	4.4	4.6		7.1
総資産	1,012,394	997,532	997,532	△ 3.3	1,032,005
純資産	602,349	606,389	606,389	+ 3.4	586,358
自己資本比率	59.5	60.8	60.8		56.8
自己資本 当期純利益率 (ROE)	5.1	5.5	5.3		9.6

(注) 自己資本当期純利益率 (ROE) は年率換算値

表2 損益状況一覧(連結・I～II期計・前年同期比) (16社)

(単位:社)

	増 加	減 少	合 計
売上高	9	7	16
売上総利益	10	6	16
営業利益	10 (0)	6 (1)	16 (1)
経常利益	10 (0)	6 (1)	16 (1)
当期利益	9 (0)	7 (1)	16 (1)

※()内の数字は、赤字企業数。赤字幅が縮小した場合は「増加」、赤字幅が拡大した場合は「減少」となる

2. 2019年度通期見通しの概要

表3 【第2四半期時点】連結業績予想の概要（16社）

（単位：百万円・％）

	2019年度通期見通し			2018年度実績
	第1四半期時点	第2四半期時点	前年度比	金額、比率
売上高	772,890	721,558	△ 15.5	854,243
営業利益	64,858	50,054	△ 45.0	91,069
営業利益率	8.4	6.9		10.7
経常利益	65,378	51,395	△ 44.6	92,772
経常利益率	8.5	7.1		10.9
当期利益	45,503	34,045	△ 48.2	65,757
当期利益率	5.9	4.7		7.7

表4 【第2四半期時点】連結業績予想の増減（売上高、経常利益）（15社）

通期 (対前年度比)	増収増益	2社 (2社減)	増収減益	1社 (1社増)
		減収増益	1社 (1社減)	減収減益

※前年度又は今年度に決算月を変更した1社は増減記載なし

※（ ）内は、第1四半期時点からの増減社数

◎第1四半期時点からの修正理由

【売上高、経常利益とも上方修正 …1社】

○第2四半期累計業績について、売上高は、搬送機械、産業機械で前年同期に比べ増加した一方、精密機械は米中貿易摩擦などの影響により減少したが、サービスマンテの強化や高精度加工機等が健闘し、当初見込みを上回ることができ、全体としては、当初見込み及び前年同期実績を上回る結果となった。利益面では、搬送機械を中心にした売上高の増加や、産業機械や精密機械でコストダウン、経費の削減が進んだことにより、前年を上回るとともに、当初予想を大幅に上回った。通期についても、第2四半期累計実績並びに、営業見通しを基に売上、利益とも上方修正。

【売上高は下方修正、経常利益は上方修正 …1社】

○下期は工作機械業界の環境が厳しいこともあり、減収見込み。利益面では、下期は工作機械事業の利益率低下が見込まれ、輸送機器関連事業が不調見通しであることから減益見込みであるが、原価低減効果により各利益は前回業績予想を上回る。

【売上高、経常利益とも下方修正 …7社】

○売上高は、景気減速懸念により設備投資を先送りする動きが強まっていること等から、自動車関連メーカー向け専用工作機械、工作機械用機器が減少する見通しのため前回予想を下回る見通し。利益面においては、売上の減少による採算の悪化がコスト低減努力を上回ること等により、前回予想を下回る見通し。

○米中の貿易摩擦の影響などによる景気の減速から国内外ともに設備投資を控える動きが増したことで、短納期対応を含めた工作機械本体の販売が低調であったこと、北米の販売店網の再構築時に

において主要販売店の入替により一時的に販売活動に停滞が生じ、当初見込みの 80%程度しか成果が上がりなかったこと、また部品売上は伸ばしたものの、工作機械本体の売上が前年同期比2割強の減少と大きく落ち込み、損益分岐点売上を確保することができなかったことから、第2四半期の業績予想を下回り、通期の業績予想についても売上、利益ともに下方修正。

○第2四半期累計業績は、受注高が上期前半から減少し、売上高は、受注減少に伴い、前回予想を下回る結果となった。利益面においても、コスト削減等による費用の圧縮に努めているが、売上高の減少による影響が大きく、前回予想を下回る結果となった。通期については、第2四半期の受注・売上状況、業績、及び今後の見通しと、受注、費用見込により業績予想の見直しを行った結果、売上、利益とも前回予想を下回る見通し。

○第2四半期累計業績は、米中貿易摩擦の影響による設備投資需要の減速などで、主力機種の販売が大幅に減少し、売上高が期初の業績予想を下回る見込み。利益面も、販売台数減少に伴う工場稼働率の低下や固定費の増加等により、期初の業績予想を下回る見込み。通期予想についても、第2四半期累計業績及び足元の事業環境等を踏まえ下方修正。

○売上高は、自動車部品製造事業において、国内での汎用機部品等の受注及びベトナム子会社での建設用機械部品の受注が当初予想を下回る見込み。利益面では売上高の減少見込みによる固定費をカバー出来ず、各種利益が当初予想を下回る見込み。

○第2四半期累計実績に加え、第3四半期以降も工作機械事業において中国市場向けの販売は好調を維持する一方、主に欧州市場向けの販売が低調に推移するものと見込まれることから、売上、利益ともに前回予想を下回る見通し。

○第2四半期累計業績は、単体がほぼ計画通りに推移したものの、海外経済の減速によってヨーロッパやタイなどの海外連結子会社業績が影響を受けたことに加え、中国の連結子会社にて大型案件の売上が下期にずれの影響もあり、連結売上高が年初見通しを下回る見込み。また、売上高減少の影響により、利益も年初見通しを下回る見込み。通期は第2四半期累計実績を踏まえ、下方修正。

3. 工作機械事業セグメントの概要

表5 工作機械事業セグメントの概要 (16社)

(単位:百万円・%)

	19年度		18年度 I～II期
	I～II期	前年同期比	
売上高	294,925	△ 12.7	337,703
営業利益	23,873	△ 37.0	37,865
営業利益率	8.1		11.2
専業比率	83.8		85.3

表6 【参考】工作機械事業セグメントの概要 (24社)

(単位:百万円・%)

	19年度		18年度 I～II期
	I～II期	前年同期比	
売上高	463,813	△ 7.8	503,146
営業利益	36,062	△ 27.9	50,046
営業利益率	7.8		9.9
専業比率	24.1		27.0

※表5の対象企業16社に加え、セグメント情報を公表している
専業比率30%以下の会員企業8社を加えた24社で集計

【調査対象会員企業 (順不同)】

(専業比率30%以上の集計対象企業)

エンシュウ株式会社
 浜井産業株式会社
 豊和工業株式会社
 小池酸素工業株式会社
 株式会社牧野フライス製作所
 株式会社岡本工作機械製作所
 OKK株式会社
 オークマ株式会社
 株式会社桜井製作所
 西部電機株式会社
 株式会社ソディック
 スター精密株式会社
 株式会社太陽工機
 高松機械工業株式会社
 株式会社滝澤鉄工所
 株式会社和井田製作所

(専業比率30%以下の集計対象企業)

株式会社F U J I
 株式会社不二越
 株式会社ジェイテクト
 倉敷機械株式会社 (倉敷紡績株式会社)
 黒田精工株式会社
 株式会社三井ハイテック
 株式会社オーエム製作所 (ダイワボウホールディングス)
 東芝機械株式会社